

札幌市立定山溪中学校の取組【環境：地域・外部人材活用】

1 研究のねらい

本校の学校教育目標は「豊かな心を持ち、たくましく伸びゆく生徒の育成」である。この具現化に向け「地域に開かれた信頼される学校づくり」を一つの柱に据えている。定山溪地域は豊かな自然に囲まれており、ここでしかできない特色ある活動を実践しようと、2010年度(平成 22 年度)から「森林教室」に取り組んできた。

札幌市は「環境首都」を宣言し、札幌らしい特色のある学校教育テーマの一つに「環境」を掲げている。本校は「森林教室」や札幌市環境局支援のバスを利用しての「環境学習フィールドワーク」、地域の自然観察やダムなどの施設視察などを行い、身近な地域のことから環境全体について考えることができる生徒の育成を目指している。特に、森を育て、森から学ぶ活動は、地球環境に関わる多くの課題を体験的に学ぶことでもある。また、「ふるさとの森に木を植えた」経験は、ふるさとを大切に慈しむ豊かな心を育むものであると考える。

2 取組内容

(1) これまで継続して取り組んできた内容

① 森林教室

2010 年から、北海道森林管理局石狩地域森林ふれあい推進センターの支援を受け、奥定山溪の水源の森で、裸地に植林し「森を育てながら森の働きを学ぼう」という取組を始めた。周辺の森と調和する森を目指し、現地で北海道固有種の種子を採取し、中学校で苗に育て、これまで 14 種を植樹し、毎年成長調査や育苗を続けてきた。周辺林での育林体験、林相観察や植生調査、現地環境の変化を地表性昆虫相からとらえる P T 調査や、自動撮影装置による周辺の野生動物調査も継続している。

2013 年からは、中学校近くの三笠緑地で、春植物の保護活動に取り組み、毎年植生調査や環境美化活動、看板の設置やポスター等での呼びかけを行っている。



② 教科や総合学習での環境学習フィールドワーク

地域の自然や環境について、理科や社会科などの教科で学校周辺での自然観察や水質検査、ダム見学などを行っている。2011 年から札幌市環境局の環境学習バス貸出事業に応募し、社会科と理科の合科によるフィールドワークを実施してきた。中山峠地滑り帯での護岸・砂防林・砂防ダム、豊羽鉦山の堆積ダム水浄化施設、エネルギー資源について地熱発電調査やぐら・水力発電施設、北海道森林総合研究所、浄水所・水再生プラザ・水管トンネル工事現場、博物館活動センター、などで見学体験学習を実施し、定山溪地域のみならず、より広域における環境との関わりについて学びを深めてきた。



(2) 今年度、新たに取組をはじめた内容

①夢の森づくり

2015年3月に学校近くでシカによる樹皮食害があり、森林教室の中で調査したところ、一部は開発後放置され森林化しつつある国有林であったことから、調査から派生して、この地を中学生が理想と考える森を育てる場所として活用できることになった。昨年度行った被害木の経過調査を踏まえ、生徒全員が「こんな森がいい」という絵を描き、実現に向け計画を考えた。7月の第2回森林教室で、活動地の整備を行った。事前に3年生が考えたルートに沿って小路をつけ測量後、「集える広場がある森」づくりに向け草刈りを行った。以降、植生調査や地表性甲虫類調査、野生動物調査などを継続的に言い、8月には専門学校の生徒の支援を受けて丸太の椅子を設置、描いた夢の一部がかなったものもある。10月には植栽した苗を守るためにシカ防護柵を設置した。



②JICA 研修員との交流

昨年度から森林育成のため海外から研修に来日されている方々との交流も行っている。今年度はアジア、アフリカから13名を迎え、各国の森林について講演をいただいた後、定山溪地域を案内、夢の森での中学校の取組を紹介して、育ててきた苗と一緒に植栽した。



3 成果と課題

(1) 成果

奥定山溪での森づくりでは、苗を実生で育てたため、実際に植栽できるまでに3年以上かかったが、芽生えからの成長を日々見守ることができたため、想いが込められるようになった。植林地まではバスで1時間かかるため、年に2回しか行けず、天然更新の草本類や食害により、枯死する株も多く、調査をもとに改善をはかってきたものの、期していたほどの成長はない。しかし、生徒は様々な環境学習を重ねる中で、ふるさとの環境が担う役割の大きさを知り、自分が実際に地域環境保全に貢献できた喜びを感じた。7年間の活動で成果も多く得られている。三笠緑地での環境保全活動は、自分たちの生活の場に近く、保護、調査、環境美化、情宣等の活動で地域の方々との交流も増えた。

今年度から取り組み始めた夢の森づくりでは、生徒自らの願いをベースに自由で主体的に活動させることを重視し、活動への意欲醸成をねらっている。活動地まで近いので、森づくりのための作業や状況の把握、調査学習の他、JICA研修員との交流など様々な取組に活用できている。



(2) 課題

森づくりには長い時間がかかり、継続が求められる。担当者が代わっていく中、活動の質をどう高めていくかが今後の課題である。